

中学生連載企画 私たちのふるさと 松山学 No.4

余土中学校

地域に根付く「一粒米」の精神 盲目の村長・森盲天外

私たちは「一粒米」の精神で余土の発展に貢献した盲目の村長・森盲天外について興味を持ち、生徒会のメンバーがそれぞれのテーマで調査しました。

① 森盲天外とは



山見 康介さん (3年)

元治元年に生まれ、県会議員を務めていましたが明治27年に目を患い、治療のまいなく失明、失意のあまり、3度自殺を図りました。しかしある日の食事中、一粒の米が膝に落ちたとき、

② 母の支えで一生懸命勉強



松田 志緒理さん (2年)

小さい頃に父を亡くし、困っていた母・クラでした

「一粒米」の精神を得て、前向きに生きるようになりました。その後明治31年、34歳で余土村長に当選。10年間務めました。

③ 一粒米の精神

が、クラはしつかり者で盲天外のために一生懸命働きました。盲天外は明治6年、余土に建てられた曙小学校に通い、習字や読書を習いました。2年後、一番町にあった勝山小学校へ通い、余土から5キロの道のりを雨の日も風の日も通ったそうです。

めませんでした。すると盲天外は村の人が選んでくれたのに、盲目を理由に認めないのは不相当と激怒、県知事に直談判し、村長の許可を勝ち取りました。盲天外が村長としてまず手掛けたのは、村の掲げる目標を「村是」として定めることでした。

森盲天外の経歴と碑 (山見 康介さん作)

一八六四(元治元年) 八月十三日 伊予国伊予郡西余土村(愛媛県松山市)に生まれ、

一八七六(明治九年) 愛媛県北予変則中学校(愛媛県立松山高等学校)に入学、

一八八二(明治十五年) 東京に出て、同人社で学ぶ、

一八九〇(明治廿三年) 愛媛県会議員に当選、しかし議員在任中に眼病を患い、東京で治療を受ける、

一八九六(明治廿九年) 治療の甲斐無く、失明、議員を辞し、余土村に帰郷、

一八九八(明治廿三年) 二月、余土村長に就任、

一九〇〇(明治廿三年) 余土村長をやり、村政の基礎を作った、

一九〇七(明治四十一年) 余土村長を勇退し、松山市へ移住、私立愛媛盲学校(愛媛県立松山盲学校)を設立、

一九〇八(明治四十一年) 自伝「一粒米」を著した、

一九二二(大正十一年) 十月、天心園を閉き、青年教育に従事した、

一九三二(昭和七年) 十月、道後湯之町長に就任、

一九三四年(昭和九年) 四月七日、町長在任中に死去、

「一粒米の碑」
愛媛県は盲天外が盲目という理由で村長当選を認め

たまたま箸から膝の上に落ちた米を指先に乗せていると、盲天外はあることに気付きました。それはわずか一粒の米にもほんの少し重さがあるということ。一粒の米に宿っている命の意味を考え、自分のエネルギーになっっていることに気付く、自ら命を絶つてはいけな

④ 困難に打ち勝ち村長に



是藤 万季さん (3年)

と思っただけです。

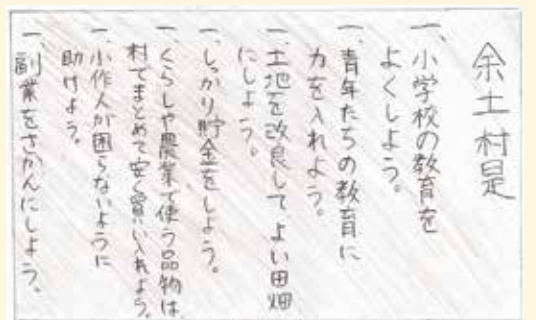
⑤ 子どもたちを大切にしたい余土村是



三木 梨花さん (3年)

余土村をもっと豊かにするための「余土村是」は7つあります。そのうち私が特に興味深いと思ったのは「小学校の教育をよくしよう」「青年たちの教育に力を入れよう」「しつかり貯金をしよう」の3つです。これらには全て子どもが関係しているからです。

⑥ 主な村是



三木 梨花さん作



川端 恂作さん (2年)

「小学校の教育をよくしよう」余土尋常高等小学校を開校したり、安全に登校するために橋を架けたりしました。

「青年たちの教育に力を入れよう」リーダーを育てるために青年実習会を作ったり、いろいろな人に勉強を教える環境を作りました。

「しつかり貯金をしよう」よく働き、少しのお金でも貯金するように説いたり、小学5年生以上の子どもに協力してもらい、貯金をするように呼びかけました。

⑦ 全国でも認められた盲天外の功績



上杉 俊輔さん (3年)

「余土村是」は大阪で開催された第5回内国勸業博覧会に出品し、一等賞に

⑧ 特別支援学校を設立し、差別のないまちづくり



相原 和弥さん (2年)

盲天外は盲目でありながらさまざまな活動をして、余土村、そして日本に大きく貢献したすばらしい人だと分かりました。

盲天外が遺したもので、今一番活用されているものは私立愛媛盲啞学校だと思えます。この学校があるから眼病を患っている人たちが学校に行き、勉強することができるようになったからです。もしこの学校を設立していなければ盲天外が目指した「差別のないまちづくり」は成功していなかったでしょう。

⑨ 盲天外の由来と子規との関わり



吉岡 桃花さん (2年)

本名、森恒太郎。「盲天外」という名前は正岡子規と関わりがありました。俳句が得意だった盲天外は子規に師事、そのとき子規にもらった名前が「天外」といいます。その後、盲目となった盲天外は自分で「盲天外」と名乗るようになります。

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができ



第Ⅱ巻に森盲天外を収録

先人と文化の読み物教材 「語り継ぎたいふるさと 松山百話 I・II・III」

森盲天外の「一粒の米でも粗末にしない」という考えから「物や友達、家族を大切に、そして何より自分の命を大切にしないといけない」ということになりました。このことを意識して、学校生活や部活動で最高の思い出を作っていきたいです。

友達、家族、命を大切にしたい

